

学力向上を実現する 授業改善のために その3

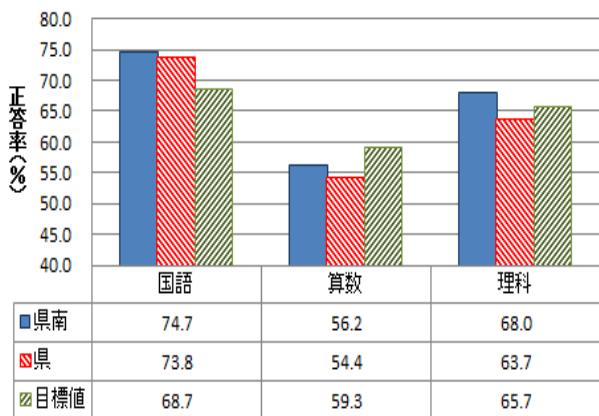
学校教育課通信

平成 28 年 2 月 18 日 (木) 第 119 号
編集・発行: 県南教育事務所 佐藤 晃

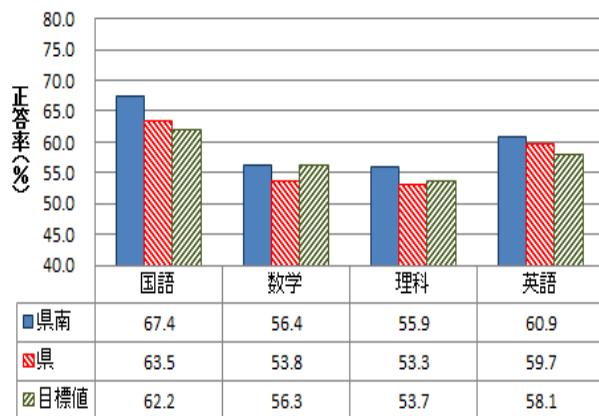
平成 27 年度県学力調査結果から

今年度の福島県学力調査結果が 1 月 18 日に公表されました。どんな取組が成果につながったのか、なぜつまずきが見られたのかなど、これまでの指導を振り返るよい機会としていくことが大切です。本事務所も、分析結果をもとにしたスキルアップ訪問や指導資料の活用を推進していきたいと思います。

H27 県学力調査教科別正答率(小学校)



H27 県学力調査教科別正答率(中学校)



域内の主な特徴

〈小学校・国語科〉

- 全体的に目標値より高く、その中でも特に「書くこと」の領域の正答率が高い。
- ▲ 問題別に見ると「故事成語の理解」「登場人物の様子の理解」「資料の読み取り」がやや低い。

〈小学校・算数科〉

- 「数量関係」の領域の正答率が目標値を上回っている。
- ▲ 問題別に見ると「整数÷小数」「除法の式にあった文章問題の選択」「面積の推察」「直方体のある辺の理解」「二次元表の読み方の理解」「図の説明」「示された考え方の活用」「概数」が目標値よりもやや低い。

〈小学校・理科〉

- 知識・活用、領域別とともに、全て目標値を上回っている。
- ▲ 「顕微鏡の使い方」など観察・実験の技能が目標値よりもやや低い。

〈中学校・国語科〉

- 全体的に目標値よりも高く、その中でも特に「読むこと」の領域の正答率が高い。
- ▲ 問題別に見ると「資料の多面的な分析」「指定された文字数で書くこと」がやや低い。

〈中学校・数学科〉

- 「数と式」「関数」領域が目標値よりも上回っている。
- ▲ 問題別に見ると「円錐の展開図」「円柱と円錐の体積の関係」「資料の散らばりと代表値」が目標値よりもやや低い。

〈中学校・理科〉

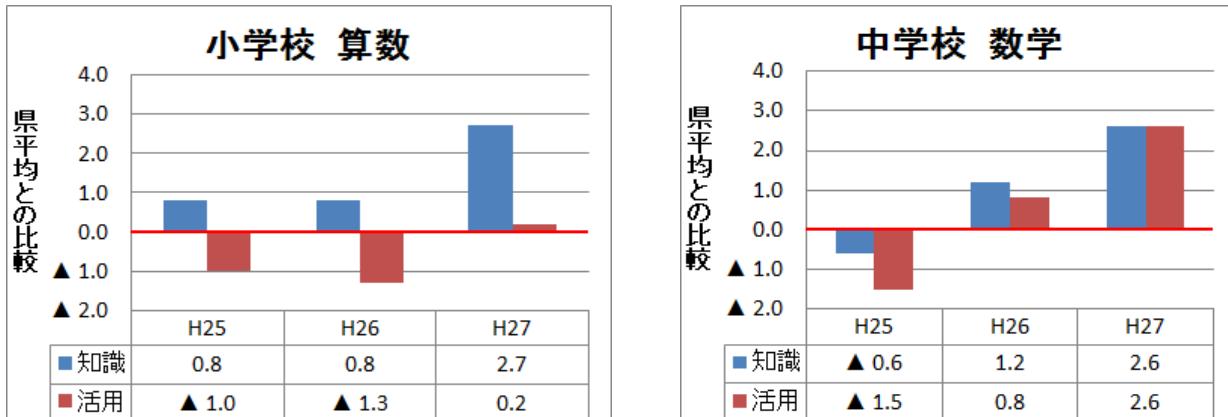
- 知識・活用とともに目標値を上回り、「生命」「粒子」の領域の正答率が高い。
- ▲ 問題別に見ると「火山活動と火成岩」「力と圧力」が目標値よりもやや低い。

〈中学校・英語〉

- 知識・活用、領域別とともに、全て目標値を上回っている。
- ▲ 問題別に見ると「語形・語法の知識・理解」「3 文以上の英作文」が目標値よりもやや低い。

算数・数学特集

＜県学力調査（算数・数学）の過去3年間の推移＞



グラフからわかるように、過去2年間と比較すると小学校算数、中学校数学ともに向上していることがわかります。特に、本年度は知識・活用とともに、県平均を上回っています。これは、各学校の学力向上の組織的な取組の成果と言えます。

しかし、単元や領域を見ると課題も残っています。大切なことは、子ども一人一人の実態や学級・学校の傾向を明確にし「弱点を克服すること」です。

その手立てとして、次の2つの資料を活用することを提案します。各学校での様々な取組の一助として、ご活用いただければと思います。

資料1 本年度の県学力調査の結果からみえた弱点を克服するための問題

県学力調査で、目標値を大きく下回った問題の類似問題を全国学力・学習状況調査問題や定着確認シート等から抽出しました。あわせて、授業での指導法についての解説をまとめました。

3つの特長

- ① 正答率が大きく下回った問題のみをピックアップした。
- ② それぞれの問題について、授業での指導のポイントを掲載した。
- ③ 問題は、印刷してすぐ使えるようにした。

おすすめ活用例

3回繰り返して、弱点克服

- 1回目 3学期 1回分ずつ問題を解かせ、その都度、解説を行う。
- 2回目 春休み 問題を「春休みの課題」にする。
- 3回目 新学期 1回分ずつ問題を解かせ、3学期からの成長を確認する。

資料2 全国学力・学習状況調査問題に関する資料

全国学力・学習状況調査の問題が、教科書のどの単元から出題されているのか、単元と調査問題との関連をまとめました。

活用例1 出題の多い単元の配当時数を増やす。

活用例2 単元に入る前に、調査問題をみて、身に付けたい力を把握する。

活用例3 単元後に、調査問題を適用問題として活用する。

※ 過去3年間の調査問題とこの資料を一冊のファイルに綴じて、各学級に置いておくことをおすすめします。それが、活用への第一歩です。